

(書式 1 - 1)

交通事故に基づき損害賠償を求める訴えの訴状

訴 状

平成〇〇年〇〇月〇〇日

〇〇〇〇地方裁判所 御中

〒〇〇〇-〇〇〇〇

〇〇市〇〇区〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号

原 告 ○ As o h o C h u o

〒〇〇〇-〇〇〇〇

〇〇市〇〇区〇〇町〇〇丁目〇〇番〇〇号

被 告 ○ ○ ○ ○

損害賠償請求事件

訴訟物の価格 金〇〇〇〇円

貼用印紙額 金〇〇〇〇円

請 求 の 趣 旨

- 1 被告は原告に対し、金〇〇〇〇円及びこれに対する平成〇〇年〇〇月〇〇日から支払済みまで年5分の割合による金員を支払え。
- 2 訴訟費用は、被告の負担とする。

との判決並びに仮執行の宣言を求める。

請 求 の 原 因

1 交通事故の発生

- (1) 日 時 平成〇〇年〇〇月〇〇日午（前・後）〇〇時〇〇分頃
- (2) 場 所 〇〇市〇〇町〇〇番〇〇号先路上
- (3) 事故車 ①原告運転の普通乗用車（〇〇〇 〇 〇〇〇〇号）
②被告所有、運転の普通乗用車（〇〇〇 〇 〇〇〇〇号）
- (4) 態 様 原告車が上記現場交差点を信号機に従い南から北へ直進しようとしたところ、同交差点を北から西に右折しようとした被告車と衝突したもの。

2 被告の責任

- (1) 被告は、交差点を右折するにあたっては、徐行した上で対向車線の安全を確認して進行すべき義務があるのに、これを無視し、漫然と右折した過失があり、民法第709条の責任がある。
- (2) また、被告は事故車を保有していた者であるため、自動車損害賠償補償法第3条の責任がある。

3 原告は、本件事故により次のような傷害を負った。

(1) 病 名 頭部、胸部打撲、第6肋骨々折等

(2) 加療期間

・平成〇〇年〇〇月〇〇日～平成〇〇年〇〇月〇〇日 〇〇〇〇病院 入 院

・平成〇〇年〇〇月〇〇日～平成〇〇年〇〇月〇〇日 同 病院 通 院

以上、入院〇〇〇日 通院〇〇〇日 内実日数〇〇〇日

(3) 後遺障害 胸部に頑固な神経症状を残すものとして12級12号

4 原告の損害

(1) 原告は、本件事故により、次のとおり合計金〇〇〇〇〇〇円の損害を蒙った。

(イ) 治療費 〇〇〇〇〇〇円

(ロ) 入院雑費 〇〇〇〇〇〇円

(ハ) 通院費 〇〇〇〇〇〇円

(ニ) 休業損害 〇〇〇〇〇〇円

原告は、本件事故当時〇〇〇〇(株)に勤務しており、事故前3か月平均で月額〇〇〇〇〇〇円の収入を得ていたが、本件事故のため合計〇〇か月間休業せざるを得なかった。

(ホ) 入通院慰籍料 〇〇〇〇〇〇円

(ヘ) 逸失利益 〇〇〇〇〇〇円

原告は、症状固定時から就労可能年数である67歳までの間、14パーセント程度の労働能力を損なわれている。

算式) (年収) × 0.14 × (ライプニッツ係数)

(ト) 後遺障害慰籍料 〇〇〇〇〇〇円

合 計 〇〇〇〇〇〇〇円

(2) 損益相殺

原告は、被告加入の自賠責保険会社、任意保険会社より合計金〇〇〇〇〇〇〇円の支払を受けたため、これを前記損害の一部に充当し、残額は金〇〇〇〇〇〇〇円となる。

5 よって、原告は被告に対し、前項(2)の損害金残額である金〇〇〇〇〇〇円及びこれに対する事故の翌日である平成〇〇年〇〇月〇〇日から支払済みまで民法所定の年5分の割合による遅延損害金の支払を求める。

上記のとおり、訴えを提起する。

証 拠 方 法



甲第1号証	事故証明書
甲第2号証	診断書
甲第3号証	後遺障害診断書
甲第4号証1、2	休業損害証明書、源泉徴収票

附 属 書 類

訴状副本	1 通
甲第1号証乃至4号証（写）	各1 通

解説

（請求の趣旨 1）

交通事故に伴う損害については、後遺障害分を含め事故の時より請求可と考えるため、遅延損害金の起算点は事故の当日からでも可能。

（請求の原因 1）

事故の特定と事故証明書の記載内容をベース。

（請求の原因 2）

自賠法第 3 条の責任だけでも充分である。

（請求の原因 3）

入・通院慰藉料は、治療期間、入院日数、通院実日数が重要なポイントとなるため、治療歴に基づき必ず記載する。